

水不足を解消するために 淡路広域水道企業団が誕生

淡路地域では、かねてより、その気候、地形から水道水源を小河川の表流水や伏流水、小規模なダム、ため池、深井戸等に求めてきました。しかし、単独事業体規模での水源開発は限界に達しており、島内では慢性的で深刻な水不足に悩まされてきました。

そこで、昭和54年に淡路地域（当時1市10町）は、水不足に対処するために、淡路広域水道協議会を設立し、島内ダム開発と併せて島外からの導水について検討するとともに、企業団の設立について協議を進め、昭和57年に島内各市町へ水道用水を供給する一部事務組合として淡路広域水道企業団が誕生しました。

その後、水道用水供給事業の創設認可を受け、昭和59年度から大日・牛内ダムの建設に着手する一方で、ダム建設の推進と並行して、明石海峡大橋の事業化決定に伴い島外の水源を本土導水にも委ねることになりました。そして平成11年12月、これらの施設が完成し、淡路全島一斉給水開始により慢性的な水不足が解消され、安全で安心な水を安定してお届けできるようになりました。

昭和61年から平成7年までの渇水状況

旧市町名	期 間	渇水の状況
南淡町	昭和62年5月10日～昭和62年6月30日	52日 14～8時間断水
南淡町	平成6年7月18日～平成7年5月12日	299日 19～3時間断水
洲本市	平成6年8月17日～平成7年4月24日	180日 19～8時間断水
五色町	平成6年7月5日～平成6年7月7日	3日 9時間断水
淡路町	平成6年8月22日～平成6年9月27日	37日 12時間断水
西淡町	平成6年9月2日～平成6年9月5日	4日 10%給水制限

降水量の推移

